GUNBOH
群　萌

第171号　2009年1月15日
発行所 全国化学労働組合総連合
〒113-0033 東京都文京区本郷1－28－10
本郷TKビル４F
TEL 03（3868）9663
FAX 03（3868）9664
発行責任者　秋田　孝弘
編　集　者　総合企画委員会　情宣グループ
gs03@kagaku-s.jtuc-rengo.jp

新たな世代へ向け飛躍する化学総連

－化学産業政策の更なる充実を－

全国化学労働組合総連合　会長　秋田　孝弘

全国の化学総連に集う単組組合員の皆様、明けましておめでとうございます。

新しき年の初めをご家族の皆様とお迎えのこととお慶び申し上げます。また、安全・安定運転に努め緊張感のある職場で新年をお迎えの組合員の皆さま大変ご苦労様です。

そして、加盟組合の皆さまには常日頃より化学総連への深いご理解と暖かいご協力・ご支援を賜り、改めて御礼申し上げます。新年を迎えるにあたり、組織を代表しご挨拶申し上げます。

まずなによりも、昨年9月に開催した30周年記念レセプションにおいては、多数の来賓・OB並びに各単組役員の方々に参加いただき盛大に催すことができましたことは、皆様方のご指導やご理解・ご協力による賜物と厚く御礼申し上げます。これを機に、30周年記念誌並びに化学総連の活動を纏めた紹介DVDを単組始め関係各所にも配布致しましたので、是非ご覧頂き化学総連をより一層ご理解頂くと共に、今後とも、新たな世代へ向け飛躍する化学総連への熱いエールをよろしくお願い致します。

さて、08年下期から続く経済不安、企業業績の低迷、雇用不安、さらには政局不安といった、社会全体を包む雰囲気は非常に暗く厳しいものがあります。特に私たちを取巻く環境では、自動車産業・電機電子産業など大手企業の需要減を理由とした生産調整で、社員・派遣社員の雇用解雇が大きな社会問題化していると共に、他産業では新卒採用者の内定取り消しなど雇用環境の悪化は深刻です。連合もさっそく経団連への申し入れを始めとして、労働相談所を設けるなど対応に追われています。化学産業においても、この経済環境の悪化影響や円高で、各社の業績は急変し低迷の度合いは深まっています。特に海外における生産調整や受注減が大きく影響し、大手化学企業の中には08年下期業績が単独で赤字予想に転落するところも出始めるなど、非常に厳しい状況に追い込まれています。

このような状況で労働組合として春季生活闘争への取り組みを検討していますが、連合は物価上昇分のベアや格差是正分、賃金カーブ維持分といった3段構成若しくは9000円以上の要求設定の考えに加え、ワークライフバランス、格差是正、ワークルール確立など従来の取り組みもあわせて進める考え方を打ち出しています。

化学総連は、足下の状況を踏まえながらも環境の厳しさを斟酌しつつ、これまでの取り組み方針に則り、「雇用の確保」を共通の最優先課題に置きながら、賃金・一時金などの総合的労働条件改善に向け、加盟単組内の優先項目を主体的に取り組む支援をしていくという基本スタンスを継続していきます。その上で、情報共有化の機会充実や具体的改善を目指していきます。また、昨年の大会で決めた運動方針に則り、化学産業政策を最重要課題と位置付け、今年に於いてもICEM-JAFの下、JEC連合・JEC総研との緊密な連携により、産業対策活動を始め今年度の重点課題として、①化学物質管理に関する対応（REACH・SAICM、化審法見直し）②地球温暖化問題への対応③国際レベルの関連施策などへの対応（ポストRINGなど）など、社会を構成する一員としての責任（USR※）も踏まえ、適宜・適切な活動を推進していきます。

以上の如く課題は多く厳しい環境ではありますが、加盟組合の皆さまの力強いご支援により、今年も一丸となって邁進していきます。皆さまの本年一年のご多幸を祈念し、挨拶と致します。

※USR：労働組合の社会的責任

「第3回JEC連合植林ボランティア活動」参加報告

総合企画委員会　情宣グループ　佐藤　厚弘

この度、化学総連は設立30周年を迎え、これを機会に社会貢献活動の一つとして「化学総連の森づくり」に向け、当面は国内では「緑の募金」、海外では「オイスカ子供の森計画」への寄付活動や「植林ボランティア派遣」に取り組むことを先の定期大会において確認してきました。

そうした背景の下、組織を代表し小見山事務局長と私が、「植林ボランティア活動」の中身を調査すべく、2008年10月12日～17日の約一週間に亘り、『第3回　JEC連合植林ボランティア』のメンバーとして参加して参りました。（総勢16名）

今回の活動は、国際NGO（財）オイスカからの活動要請に応え、商業的不法伐採、自然災害の継続等により農民の生活が脅かされているフィリピンのヌエバエシハ州における人材育成・農業開発・環境保全・啓蒙活動を中心とした活動の実践でした。

具体的には、「子供の森計画」の支援校8校、計3箇所を訪問、当該校の生徒達（日本でいう小学生から中学生）や先生方と交流会・植林活動等を3日間に亘り行い、植林を通じて子供達と親睦を深める中、環境保護意識や農業活性化の定着に向け現地住民の意識の高揚（自主的な行動）を促す活動を展開して参りました。

また、合間には、現地研修センターにおいて、現在トレーニング中である現地の研修生達と共に稲刈りや野菜の苗植え、小屋作り等を行い、研修生達の使命の重要性の理解や意識の活性化に繋げる活動も行いました。そして最後に、現地ヌエバエシハ州知事より感謝状を頂き今回のボランティア活動の幕を閉じました。

小見山事務局長、佐藤情宣グループリーダー

今回の活動を総括すると、（財）オイスカでの植林活動は世界レベルでの環境保全の観点において必要不可欠と理解すると同時に、実際の活動において生まれる現地の子供達との繋がりやオイスカスタッフとの友情、そして一緒に参加し苦楽を共にしたメンバーとの結束は、人間として一番大切にしたい「助け合い」について改めて気付かされるものであり、参加する側の人材育成といった観点からも推薦できるものと捉えております。

そうした事から、（財）オイスカとは、ボランティアを提供する側、受ける側の双方共に十分な配慮がなされており、化学総連が参加するに相応しい非常に価値の高い活動を提供するものと考えており、今後、「植林ボランティア派遣」の実践に向け、化学総連内部の適切な場面で十二分に検討し進めていきますので、協力要請が発信された時には是非とも積極的な参加をお願い致します。

植林活動

交流会

植林活動を終えて